



令和4年度  
4月号

# KSSVCだより

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC事務局 (Tel.22-7912)

回覧

## こんにちは！こばやしスクールサポートボランティアセンター（KSSVC）です。

KSSVCは「地域学校協働活動」推進のための取組を行っています。

地域学校協働活動とは、地域等と学校が「連携・協働」して子どもたちの成長を支え、パートナーとして地域づくりを目指していく活動のことです。

各学校で行われている活動を市民の皆様にお知らせするために、月に1回、この「KSSVCだより」を発行しています。

今年度も、子どもたちと地域の方々が共に行う活動や、企業や事業所の方を講師に迎えた授業の様子などを紹介していきますので、どうぞよろしく願いたします。



今月号は3月までの取組を掲載しています。記載してある学年は旧学年です。

### 税金って何？ ～租税教室

南小 6年生

小林法人会の吉村さんを講師にお招きし、社会科で学習した国や自治体の貴重な収入である税金について、さらに深く学習しました。

「税金って何？」「なぜ納めるの？」「小学校に使われている税金は？」など、スライドやアニメーションを使っての分かりやすい説明に、子どもたちも、税金を身近で大切なものとして学ぶことができました。



講師の吉村さん



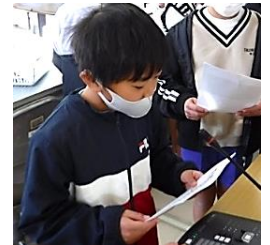
子どもたちは真剣な表情で吉村さんのお話を聞いていました。最後に、1億円のレプリカで、お金の重さ、大切さを実感しました。

### 給食感謝集会

紙屋小

例年は、全校児童が集まって行うのですが、新型コロナウイルス感染予防のため、校内放送を使っての開催となりました。

学校栄養職員の日高先生に給食センターの皆さんへのメッセージカードを渡した後、健康委員会の進行で行われました。(右の写真)



日高先生のお話や給食に関するクイズ、昔の給食の紹介などを通して、学校給食が健康で充実した生活を送るために大切な役割を果たしていることを知ることができました。



日高先生のお話



### 社会科見学 ～歴史民俗資料館

野尻小 3年生

のじりこびあ内の歴史民俗資料館を訪れ、昭和初期の頃の生活の様子や民具など、多くの展示品を見学しました。説明・案内は小林ガイドボランティアと社会教育課の皆さんです。

昔の道具に触れる時間もあり、見学・体験を通して当時の人々の知恵や工夫を学ぶことができました。今回の見学が、きっと、歴史に興味を抱ききっかけになったことと思います。



ガイドボランティアから昔の生活の様子を聞く子どもたち

## 14歳の決意 ～立志式

東方中 2年生

最上級生への進級を目前に控えた13名が、将来の夢実現に向けての決意を発表しました。

新型コロナ感染予防のために出席できなかった保護者の皆さんには、ネット配信で、一人一人が大きな声で堂々と発表する姿が届けられました。

式後は、シンガーソングライターの大野勇太さんのコンサートがあり、大野さんから生徒たちに、歌とお話でエールを送っていただきました。



大野さんの歌声が、決意をさらに強いものにしてくれました。

## 手話の学習

幸ヶ丘小 3～6年生

小林市の小学校では、手話を3年生と5年生の「こすもす科」で学習しますが、幸ヶ丘小では3～6年生の7名と一緒に学習しました。講師は、手話サークル「木の実会」のお二人です。

聞こえない人の生活や伝え合う方法などを学習した後は、手話でのあいさつや指文字を使っての自己紹介に挑戦。積極的な取組の結果、全員が手話での自己紹介ができるようになりました。



講師のお二人から丁寧に教えていただき、子どもたちは、すぐに手話ができるようになりました。

## かんなくずでコサージュづくり

須木小・須木中

木材加工の際に出る「かんなくず」を活用した卒業式用のコサージュづくりに、小学校は5・6年生、中学校は1・2年生が取り組みました。

講師は「みやざきアートセンター」の緒方さんと「トイアクティビティゆう遊」の松河さんです。

お二人のやさしく丁寧なご指導により、個性豊かで、木の温もりを感じさせる作品ができあがりました。卒業式では、心のこもったコサージュが、小学6年生、中学3年生の胸で輝いたことと思います。



かんなくずの端を貼り合わせて、花びらの形を作っていきます



## ボランティア募集

学校の活動をサポート(お手伝い)して下さるボランティアを募集しています。ボランティア登録された方々は、市内の小・中学校に紹介いたします。

登録の仕方など、詳しくはKSSVC事務局へお問い合わせください。

電話:22-7912(中央公民館 社会教育課内)

### <サポートの例>

- 子どもたちとの交流や遊び
- 農業や栽培
- 草刈りなどの環境整備
- 備品の修理
- 裁縫や調理実習
- 朝自習の丸つけ

…など、どんなことでも結構です！



家庭科(裁縫)の授業サポート



しめ縄づくりで交流



令和4年度  
5月号

# KSSVCだより

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

回覧

五月五日は、五節句の一つ、「端午(たんど)の節句」にあたります。

「端午」とは、本来、毎月の初めの午(うま)の日を指すのですが、奈良時代以降、五月の五日が「端午の節句」として定着し、病気や災いを避けるための行事が行われていたそうです。

江戸時代になると、男の子の成長と健康をお祝いする日となったようですが、現在は、すべての子どもの幸せを願う国民の祝日「こどもの日」ともなっています。

新年度になって1か月。子どもたちも新しい環境に慣れ、様々な場面で活躍しています。



健やかな成長と幸せを願って、応援していきます。

## 花で地域を元気に

紙屋小 6年生

紙屋大橋とセブンイレブンの間にある国道沿いの花壇(田の神さあの近くです)に、「紙屋一徳まちづくり協議会」の皆さんとともに、金魚草やノースポール、ナデシコなどを植えました。

卒業を目前に控えた子どもたちは、いつも見守ってくださっている地域の皆さんへの恩返しの意味を込めて、丁寧に植えていきました。

植え終わった後、子どもたちからは「心がさわやかになりました。」「地域の方が花で元気になってほしいです。」などの感想が聞かれました。



今月号も3月までの取組を掲載しました。記載してある学年は旧学年です。

## 先端技術を学ぶ

永久津小 5年生

キャリア教育の一環として、トヨタカローラ宮崎本社と小林営業所の方々の協力を得て、車の先端技術を学びました。

前半は、地球温暖化、燃料電池自動車など、クイズも交えた「車と環境」のお話を聞き、後半は、窓の開閉やエアコンを音声で操作したり、自動運転で車庫入れをしたりなどの体験を行いました。

学習や体験を通して、環境や人にやさしい技術の開発に取り組んでいる企業の努力に触れることができました。



自動運転の先端技術です。左はハンドルから手を放しての車庫入れ、右はスマートフォンを使った無人での車庫入れの様子

## 花で元気を届けました

東方中

本来は、生徒たちが地域の一人暮らしの高齢者宅を訪問し、種から育てた花をお渡しする予定でしたが、コロナ禍の中、昨年と同様に、区長さんや地域のボランティアの方々をお願いをして届けていただきました。

育てた花はパンジーとビオラで、一鉢ずつ、生徒たちの手書きのメッセージが添えられていました。

お会いして、直接お話をすることはできませんでしたが、学校と地域が「高齢者の皆さんを元気にしたい」という共通の思いを込めた、素晴らしい取組となりました。



届けてくださる方の車まで運んだ後は、全員で「お願いします！」

## 立志の集い

栗須小 5年生

保護者の皆さんと4年生が見守る中、33名の5年生を主役で開催されました。

大牟田校長先生の「人間は転ぶことで歩くことを覚えます。失敗を恐れずいろいろなことにチャレンジしてください」という励ましの言葉の後、一人ずつ、「月のように、人の心を優しく照らしたい」など、自分の名前や夢・目標にちなんだ言葉を示しながら、決意を發表しました。

6年生になった現在は、その決意を胸に、学校のリーダーとして活躍していることと思います。



## 木彫りの校歌額を制作

南小 6年生

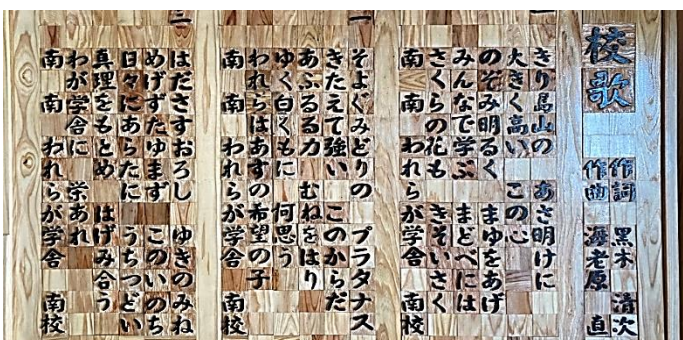
卒業記念として、木彫りの「校歌額」の制作に取り組みました。指導をしていただいたのは、高原町で製材業を営んでおられる森 正明さんです。

初めに、森さんから森林の働きや役割などのお話を聞き、木の良さや森の大切さを学んだ後に、木彫版に彫刻刀で彫っていきました。

卒業間近の子どもたちは、6年間の思いを校歌一字一字に込めていました。完成した校歌額は校内に掲示されています。



森 正明さん



## 福祉体験学習

小林小 3年生

社会福祉協議会の皆さんの指導・協力を得て、入浴や階段の昇り降り、お金の取り扱いなど、高齢者の日常生活を疑似的に体験しました。

疑似体験装具(手足の重り、耳当て、ゴーグル、軍手など)を装着し、加齢による視力や聴力、筋力などの変化を知ることで、高齢者の気持ちや介助の仕方、高齢者とのコミュニケーションの取り方などを体験的に学ぶことができました。



装具をつけての入浴体験(左)と階段の昇り降り体験の様子

## 夢を探そう ~専門学校に学ぶ

細野中 1年生

専門学校の先生方の話を聞くことで、自身のキャリアについて具体的に考えることを目的としたこすもす科の授業です。

生徒たちは、小林看護医療専門学校や宮崎マルチメディア専門学校などの7校から4校を選び、学校の概要や求められている人材等の説明を真剣に聞いていました。

仕事に必要な技術や資格を取得する専門学校について知ることは、今後のキャリアプランを描く際にきっと生かせることと思います。



専門学校の先生方の話は、仕事について知る機会にもなりました



令和4年度  
6月号

# KSSVCだより

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

## 回覧

### 心澄めば 怒涛ぞ聞こゆ 夏至の雨

白田亜浪

(心を澄ませると、怒涛のように聞こえる夏至の雨である)

6月21日は、二十四節季の一つ「夏至」で、一年のうちで、最も昼(日の出から日の入りまで)が長くなる日です。

「夏至」の文字からは「暑さの盛り」のイメージがありますが、実際には梅雨の最中ということがほとんどです。

雨の多いこの時期、心配されるのは子どもたちの交通事故。

多くの学校では、4、5月に「交通安全教室」を開き、交通安全に対する意識を高めています。

今月号では、その様子もいくつか紹介しています。



### ようこそ 1年生!

### 幸ヶ丘小

1人だけの新入生を主役に、2～6年生が、心を込めて「1年生を迎える会」を開いてくれました。

6年生の案内で体育館に入場した後は、「自己紹介じゃんけん」「平均台じゃんけん」などのゲームや「三択クイズ」で楽しい時間を過ごしました。

初めはやや緊張していた1年生ですが、お兄さんやお姉さんたち、そして先生方の温かな気持ちに触れながら、幸ヶ丘小の一員としての思いを膨らませていったことと思います。



楽しい時間を過ごしながら、すっかり幸ヶ丘小の一員となりました

### 小林こすもす支援学校との対面式

### 東方小

東方小学校には、県立小林こすもす支援学校の小学部が併設されており、日常的に交流を行っています。このほど、今年度最初の交流である「対面式」が行われました。

新型コロナ対策のため、リモートでの実施となりましたが、2つの学校が交互に学級を紹介したり、昨年度の活動を写真で振り返ったりと、楽しく交流することができました。

「力を合わせて共に成長しましょう」という気持ちの溢れた対面式となりました。



タブレットを使って、リモートで学級紹介を行う3年生

### 交通安全教室 ～小学校編



### 西小林小

小林警察署と交通安全協会の皆さんを講師に、低、中、高学年別を実施されました。

雨天のため、体育館での実施となりましたが、1・2年生は横断歩道の安全な渡り方、3年生以上は自転車の安全な運転の仕方について学習しました。

「事故には絶対に遭わない」「事故は絶対に起こさない」という強い思いを持ちながら、真剣に取り組むことができました。



3年生以上は、見通しの悪い交差点での運転も学びました

## 細野小



交通安全意識を高めるために、小林警察署、交通安全協会の皆さんを講師に実施されました。

雨天のため、体育館での実施となりましたが、1・2年生は横断報道の安全な渡り方、3年生以上は自転車の安全な乗り方を学習。

歩行中も、自転車の運転中も、「止まって、周りを確認」することが交通事故を防止する行動であることを学びました。



安全を確認しながら横断歩道を渡る練習をする1・2年生

## 交通安全教室 ～中学校編

### 永久津中 1年生



県サイクリング協会理事長の押領司誠さん（永久津中の元校長先生です）を講師に、これから自転車を利用する機会が増える新1年生を対象に、体育館で開催されました。

初めに、ヘルメットの大切さや自転車のルールを学習した後、まっすぐ走るコツ、スムーズに曲がるコツ、急ブレーキをかけた時の姿勢などを練習し、無事故につながる知識や技術を身に付けることができました。



押領司さん指導のもと、様々な運転技術を練習する生徒たち

## 三松中



小林警察署と交通安全協会の皆さんを講師に招いて、自転車の安全な乗り方を学習しました。

初めに、自転車の基本的な交通ルールなどについてのお話を聞いた後、自転車通学の生徒が、見通しの悪い交差点での安全な運転の仕方の実技を行いました。

日ごろ乗り慣れている自転車ですが、改めて「止まって、確認する」ことが事故防止につながることを再確認しました。



交通安全指導員のアドバイスを受けながら、見通しの悪い交差点での安全な運転の仕方を学びました

交通安全教室の時に、交通安全指導員の皆さんにインタビューしました



ドライバーの皆さんに  
お願いしたいことは？

- ☆ 子どもたちの姿を見かけたら、徐行するなど、より一層の安全運転をお願いします。
- ☆ スクールゾーンは車が通行できない時間帯がありますので、確認をお願いします。
- ☆ 信号機のない横断歩道を渡ろうとする子どもがいたら必ず止まってください。（渡りたい時には手を挙げるよう教えています。大人の皆さんも手を挙げる姿を子どもたちに見せてください。）
- ☆ 「止まれ」の標識がある交差点では、停止線で完全に車を停止させ、安全確認をお願いします。



子どもたちの安全のために、よろしく  
お願いします





令和4年度  
7月号

# KSSVCだより

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

## 回覧

食物繊維たっぷりの健康食品「サツマイモ」。秋から冬にかけて、スーパー等でもホカホカの焼き芋が売られています。

サツマイモは、メキシコを中心とする熱帯アメリカで生まれ、日本には、1600年ごろ、中国からやってきました。

琉球(今の沖縄県)から薩摩(今の鹿児島県)に伝わったので、サツマイモとよばれています。

江戸時代、八代將軍吉宗のころに、飢饉による食糧不足から人々を救うために、蘭学者の青木昆陽(こんよう)によって全国に広められました。

市内には、サツマイモの苗植え体験を行っている学校がありますので、今月号では、その中からいくつか紹介したいと思います。



### 野尻小 1・2年生

生活科の授業で、学校の近くにある「なかよし畑」に「紅はるか」の苗を植えました。事前準備と当日の支援は、東麓地区営農組合とJAこばやしの皆さんです。

子どもたちは、植え方を教えていただきながら、楽しく植えていきましたが、昨年も苗植えを経験している2年生の手際のよさは、さすがでした。秋の収穫が楽しみです。



### サツマイモの苗植え体験



#### 永久津中 2年生

学校コーディネーターの神之菌さんと今別府さんの支援を受けながら、甘さが特徴の「紅はるか」と「宮崎紅」の苗を植えました。

お二人から植え方を教わった後は、生徒たちが分担しながら植えていきましたが、手際がよく、30分ほどで植え終わりました。

10月には収穫し、文化発表会の日に参観者に配ったり、家庭科の調理実習で使ったりするそうです。



#### 西小林中 2年生

技術・家庭科(技術分野)の「栽培」の授業です。支援してくださったのは木村農園の木村さんです。

「黄金千貫」2,440本と「紅はるか」100本の苗を2人1組で協力しながら、丁寧に植えていきました。

この後は、11月の収穫。収穫したイモを使った12月の調理実習(家庭分野)へと、学習が繋がっていきます。



## 紙屋小 1・2年生



生活科の授業で、学校近くの「わくわく農園」に植えました。支援してくださったのは、JAこばやしと保護者の皆さんです。

植える前には、2年生が、雑草を防ぐためのマルチシートを張る体験も行いました。

JAの皆さんの支援もあり、短時間で植え終わりました。秋の収穫も含めて、毎年多くの方々に協力いただいています。



## 梅ちぎりを体験

## 栗須小 1年生

間もなく梅雨入りという時期に、学校のプール横にある梅林で梅の実を収穫しました。

支援してくださったのは、野尻農産加工センターの皆さんです。

低い枝の梅だけでなく、木に登ったり、脚立を使ったりしながら高い枝の梅をちぎる姿も見られ、大活躍の子どもたちでした。

収穫した梅は、加工センターで梅干しにされ、1年生の家庭に配られるそうです。



## 読み聞かせで心を豊かに

## 須木小

読み聞かせグループ「あすなる会」の皆さんが、読み聞かせを楽しみにしている子どもたちのために、朝早くから集まってくださいました。

窓から入ってくる清々しい風が心地よい教室で、子どもたちは、お話の中の世界を想像しながら、目を輝かせ、熱心に聞き入っていました。

月に2回の開催ですが、子どもたちの心を豊かにし、読書好きを増やす素晴らしい取組です。



絵本の世界に引き込まれる子どもたち(写真は5年生)

## 不審者対応の避難訓練

## 野尻中

小林警察署生活安全課の市来さんと栗須さんを講師にお迎えして行われました。

初めに、リモートで、栗須さんから不審者対応の注意点を聞いた後、市来さんが不審者役となり、訓練が行われました。

その後、生徒たちは、講評と声かけ事案の状況等をリモートで聞きながら振り返りを行いました。

全てが終了した後は、講師のお二人と先生方による事後検証も行われ、対応の在り方や組織体制も確認しました。



不審者に気づいた生徒が大声で知らせ、全校生徒が避難場所へ



事後検証では課題も見つかりました





令和4年度  
8月号

# KSSVCだより

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC事務局 (Tel.22-7912)

回覧

浅葱色(あさぎいろ)や鶯色(うぐいすいろ)など、日本には、季節とともに変化する自然の色から生まれた伝統色があります。

そのひとつ、**苗色(なえいろ)**は、稲の苗のような淡い緑色をさす伝統色名です。

市内のいくつかの小・中学校では、保護者や地域、関係団体の方々に支援していただきながら、田植えを体験していますが、6月に植えた苗が、爽やかな風に揺れながら、田んぼを苗色に染めています。

今月号では、子どもたちが田植えに取り組んでいる様子をいくつか紹介します。



## 昔ながらの田植えを体験

### 栗須小



全校児童での田植えです。支援してくださったのは、PTA事業部、営農組合、JAこばやし、環境保全会、みかんやまスマイル会議、栗須ことぶき会など多くの皆さんです。

梅雨の合間の曇り空のもと、1年生から6年生までが協力しながら、楽しく植えていきました。秋の収穫、そして、冬の餅つきが楽しみです。



栗須小の田植えで使われた苗の半分は、5年生が5月に蒔いた種もみが育ったものです。

今年から始まった取組だそうですが、田植え前の種蒔きも経験した5年生は、米作りの大変さや喜びをより一層感じたことと思います。



### 永久津小5年生・永久津中生

平年より早く梅雨が明け、夏の日差しが降り注ぐ中、小学5年生12名と中学生30名による恒例の合同田植えが実施されました。営農組合が準備や支援をしてくださいました。

大変暑くはなりましたが、子どもたちは、元気に、そして力を合わせながら、苗を植えていきました。

日ごろから合同で活動することの多い永久津小・中の団結力が大いに発揮された田植えでした。



### 三松小 5年生



熱中症と密を避けて、1クラスずつ交替で行いました。協力はおやじの会とPTA役員の皆さんです。

大変暑い日でしたが、前日に、おやじの会と約30名の子どもたちが3分の1ほど植えてくれましたので、スムーズに進めることができました。

なお、学校では、田んぼの土を入れたバケツに苗を植え、稲の成長を観察していくそうです。



## 本物から学ぶ ～二原遺跡見学

東方小 6年生

総合的な学習の時間に、二原遺跡公園内にある地下式横穴墓(8号墓と11号墓)を見学しました。

案内・説明をしてくださったのは、小林ガイドボランティアの前田さんと里岡さんです。

見学後は、社会教育課の井上さんから市内遺跡からの出土品も実際に見せてもらいました。

本物を見ることで、子どもたちは、身近な地域の歴史に、より興味を持ったことと思います。



5体の遺体が埋葬されていた11号墓



(写真左)8号墓では「家」形をしている玄室内も見学  
(写真右)縄文時代などの実際の土器に驚く子どもたち

## 読み聞かせ

小林中 1・2年生

「小林子ども遊学会」の皆さんによる、月に一度の読み聞かせです。

民話や小説の読み聞かせ、本を読まない「語り」、さらにはクイズなど、毎回、バラエティに富んだ内容で生徒たちを楽しませてくださいます。

会の皆さんは、生徒たちが小学生の時にも読み聞かせをされていますので、生徒たちもリラックスしながら、朝の豊かな時間を過ごしているようでした。



## 生き方について考える講演会

紙屋中

細野地区にある「牛商丑力(ぎゅうしょうぎゅうりき)株式会社」の後継者、富永征駿さんに『生まれ育った小林市で就農、起業した私が今伝えたいこと』という題で、お話をいただきました。

仕事への思いや夢を見つけるためにやってほしいこと、挑戦することの大切さなどのお話に、生徒たちは、真剣な表情で聞き入っていました。

地元小林で頑張っている先輩のお話は、これからの自分の生き方について考える参考になったことと思います。



富永 征駿さん



## 『読み聞かせ』を楽しみませんか

### 読み聞かせボランティアを募集しています

市内の小・中学校では、在校生や卒業生の保護者、地域の方々等で構成された「読み聞かせグループ」による読み聞かせが定期的に行われており、子どもたちの感性や想像力の育成に貢献していただいています。

最近は、メンバー不足に悩んでいるグループも多いようですが、「絵本を読みながら、私たちも力をもらっています」「目を輝かせて熱心に聞いてくれるので、嬉しいです」などの声も聞かれます。

読み聞かせボランティアを募集しているグループもありますので、子どもたちと一緒に読み聞かせを楽しみたい方は、市立図書館に連絡していただければ、学校に紹介するそうです。(男女は問いません)

※ 市立図書館の電話番号：0984-22-7913



令和4年度  
9月号

# KSSVCだより

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

回 覧

食べて楽しむ「春の七草」に対し、花の美しさを愛でる「秋の七草」は、万葉集に収められている山上憶良の2首の歌が始まりだそうです。

「秋の野に 咲きたる花を 指折り(およびをり) かき数ふれば 七種(ななくさ)の花」  
「萩の花 尾花 葛花 撫子(なでしこ)の花 女郎花 また 藤袴 朝貌の花」

1首目で「秋の野に咲いている草花を指折り数えると7種類ある」とし、2首目で「それは萩の花、尾花、葛(くず)の花、撫子(なでしこ)の花、女郎花(おみなえし)、また藤袴(ふじばかま)、朝貌(あさがお)の花である」と述べています。

※「朝貌」については朝顔ではなく 桔梗(ききょう)が定説だそうです。



まだまだ残暑が厳しい日もありますが、9月は、少しずつ秋の気配が漂ってきます。その気配を楽しみながら、健康(健幸)で元気に過ごしましょう。

## 学校と地域を結ぶコンサート

細野小

津軽三味線の「村上三絃道」が、音楽で学校と地域の絆をより深めてほしいという願いを込めて開催しているコンサートです。

三代目家元の村上由宇月さんと華映さん、由稀愛さんの力強い三味線の演奏や歌を、子どもたち、先生方、そして保護者や地域の皆さんは、手拍子をしたり、体を動かしたりしながら楽しみました。

参加した全員が笑顔に、そして元気になれる素晴らしいコンサートでした。



## 水辺の学習 ～環境を考える

南小 5年生

市生活環境課と小林保健所の協力を得ながら、水辺の環境調査を行いました。

前半は、学校で川の役割について学習しましたが、その際、校区内のクリーン・アクア・ビバレッジ(ミネラルウォーター製造)の社長さんから、小林の水のきれいさについてのお話もありました。

後半は、校区内の辻の堂川で、災害ボランティアコーディネーターと南校区まちづくり協議会の方々から安全面のサポートを受けながら、においや透明度、水質、水生生物などを調査し、川がきれいであることを確認しました。

この日の結果をもとに、子どもたちは、身近な環境を守るためにできることを考えていきます。



生息している水生生物によって、川の状態を知ることができます

## 読み聞かせ

須木中



市立図書館須木分館の山下さんが来校され、全学年合同で行われました。

山下さんには「アレクサンダとぜんまいねずみ」「くらげほねなし」という2冊の絵本を読んでもいただきましたが、生徒たちは、それぞれのお話をじっくりと、想像力を働かせながら聞いている様子でした。

朝の短い時間ですが、清々しい気持ちで1日のスタートを切ることができました。



## 認知症サポーター養成講座

西小林中 3年生

地域で認知症の方やその家族に対して、できる範囲で手助けをする「認知症サポーター」。そのための知識や理解を深めるための学習です。

前半は、和（なごみ）福祉サービス代表の小倉和也さん扮する「かずばあさん」が、日本の高齢化の現状、認知症とは何か、サポートの仕方などを教えてくださいました。

後半は、西部地域包括支援センターとeサポーターの皆さんによるグループワークや紙芝居で、身近な人が認知症になった場合の対応の仕方などを考えながら、認知症サポーターとしての意識を高めました。



「かずばあさん」は、誰もが地域で自分らしく生活するためにはサポートも大切であることを伝えてくださいました

## 手で話す ～手話の学習

西小林小 3年生

こすもす科の「手話にふれよう」の学習です。ゲストティーチャーは小林手話サークル「木の实（このみ）会」のお二人です。

耳の聞こえない人の伝え合う方法、生活で工夫していること、手話による挨拶など、基本的なことを学習した後は、手話と指文字を使っての自己紹介に挑戦しました。

子どもたちは、楽しく手話に触れながら、全員、自己紹介ができるようになりました。



すぐに手話での自己紹介ができるようになりました

## ふる里再発見 ～農業体験

三松中 1年生

北きりしま田舎物語推進協議会のコーディネートにより、小林・えびの・高原の協力農家さん宅で農業体験等を行いました。

学校での入村式で受け入れ先の皆さんと対面した生徒たちは、その後、13軒の農家に分かれて、農産物の収穫や昼食づくり体験、家族の方々との交流などを行いました。

体験や交流を通して、豊かな自然と温かな人柄に触れた生徒たちは、改めて、西諸県地域の良さを感じたことと思います。



ジャガイモの収穫に汗を流す生徒たち(畑の宿 づのかんぼにて)

## 命を救う技能を身に付ける

野尻中 3年生

例年行っている校外でのボランティア活動がコロナ禍で中止になったため、社会の役に立つ技能を身に付けようと、普通救命講習を受講しました。

講師は、野尻分遣所の皆さんです。

「応急手当の基礎知識」「救命措置の手順」「心肺蘇生法とAEDの使い方(実技)」など3時間の講習を受け、全員が救命技能認定証を取得しました。

命を救う技能を身に付けた生徒たちは、安心して生活できる地域づくりに大きく貢献してくれる頼もしい存在です。

